

第 14 回春日部市医療介護職連携研修・交流会（春コン）

《講演に対する質問と回答》

令和 3 年 10 月 26 日開催

Q) 法制化されていない中、ACP の考えを進めていくことは難しいと聞いておりますが、今回の WEB 研修を聴講させて戴き、前向きに進めていくことが可能なのではないかと思いましたが、展望はどのように考えておりますでしょうか？（消防署/消防職員・救急隊）

【埼玉精神神経センター 丸木 雄一様より回答】

A) 昔はがん患者様に、がんの宣告はせずに家族だけが病状を把握して対応していましたが、今はその治療法が進んできたこともあり、病名の告知、予後の告知などもしっかり説明しています。このように徐々に広まってきていると思いますし、今回の春日部での試みも地域での ACP を広める良い機会になっていると思います。もっと広まることは間違いないと考えています。

Q) 死に対しての忌避感は日本人の根底にあるように思います。専門家として家族や本人に ACP を紹介、勧める際に何か良い方法があれば教えていただきたい。（包括支援センター/ケアマネ）

【埼玉精神神経センター 丸木 雄一様より回答】

A) 先日、さいたま市で行ったご老人を対象にした ACP の説明会で、私の第一声は「50 年後この中で生きている人はいないと思います」でした。皆この言葉に笑って、講演がやりやすくなりました。死は万が一ではなく、必ず皆に訪れること。死まで自分らしく生きることが重要であることはご老人も皆自覚しているように思えました。あまり躊躇なく人生会議を初めて問題ないと思います。

Q) ACP について、おすすめの本はありますか？（居宅介護支援事業所/ケアマネ）

【埼玉精神神経センター 丸木 雄一様より回答】

A) 会田先生が症例集として、本を今まさに出版しようとしております。私も症例を提示させて頂きました。出版されたらご紹介します。

Q) 救急救命士です。昨今時代の変化に伴い、心肺停止の救急現場でもなるべく本人のご意向に沿った形での医療処置を行おうと、DNARについてどのように確認したら良いか、そもそもDNARとは何か？どこまで蘇生処置をしたら良いのか、医療従事者の間でもDNARの認識が違うということもあり難しいテーマになってきています。今回ご講義頂いたACPもDNARとつながる部分もあると思います。また、リビングウィルにも重なります。そこで、ご質問なのですが、急性期的心肺停止の場面で、本人の書いたACPの私の意思表示ノートとご親族様のご意向が違った場合、先生方はどちらを優先させるのでしょうか？また、ご親族様にはどのように説明をすると納得していただきやすいなどお気持ちを汲んだ言葉がけなどお看取りの場面で、気をつけていることや心がけていることがありましたら、ご教授くださいますと幸いです。(消防署/救急救命士)

【埼玉精神神経センター 丸木 雄一様より回答】

A) 本人の書いたACPの私の意思表示ノートとご親族様のご意向が違った場合、先生方はどちらを優先させるのでしょうか？

家族の意見に従うしかありません書しかしながら1回は本人の意思はこのようなのですが、蘇生することによろしいですかと声を掛けます。氏が迫った患者家族には、今できる選択肢を具体的に示し、家人に選んでもらう。その時家族から先生はどう考えますか？聞かれることが多くありますが、その時には私の意見をしっかり示します。

Q) ACPへの介入で、薬局薬剤師に期待されることがあれば教えていただきたいです。(薬局/薬剤師)

【埼玉精神神経センター 丸木 雄一様より回答】

A) 窓口で、お配りした「私の意思表示ノート」をお配りして頂くのは有用な方法かと存じます。

Q) 「私の意思表示ノート」の薬局でのすすめ方等あれば教えてください。(薬局/薬剤師)

【埼玉精神神経センター 丸木 雄一様より回答】

A) 「最近こんなノートがあります。今のお気持ちを残しておく、いざというときにご家族が困らないと思います」などと説明するとスムーズに受け取っていただけるように思います。